

## 平成29年仙台視察報告書

日時	2017年4月23日(日) 13:00~16:00
場所	仙台市福祉プラザ 11階 第一研修室
主催	宮城聾史研究倶楽部
内容	「聾ライダー冒険家が語る世界を放浪道中記講演会」
講師	袴田耕平氏
講師プロフィール	1950年神奈川県横浜生まれ 東京教育大(筑波大学)付属聾学校高等部専攻科美術科卒 横浜在住
参加費	2000円
参加者	ろう盲者(1名) 通訳介助者(2名) 触手話研修会会員(5名) 一般参加者(60名程度) スタッフ(2~3名)
その他	PC 読み取り通訳なし 資料2枚(A4表裏)
視察内容	宮城のろう盲者により触手話の会の立ち上げに伴う、触手話の伝達のスキル及び、ろう盲者の様子の視察・確認等
ろう盲者と通訳の様子	講師から向かって右前列に、講師背中を向けて、テーブルをはさんで、ろうの通訳介助者2名が、15分交代で、通訳。 ろう盲者は、コピー通訳希望で、講師の手話表現そのままの手話を触手話での読み取り希望。 通訳の1人は、デフファミリーの通訳者(A) もう1人は、日本語対応手話の通訳者(B) (A) は、リズム良く伝えているようだが、時々、自分の表現した内容にうなずきながら、しかも、口形をつけている。内容は纏めながら手話表現→ろう盲者は、うなずき理解して、時には笑顔で、うなずいてる様子。 (B) は、講師の手話表現を追いかけて、手話表現しているが、時々間に合わなくて、単語が抜けている。特に固有名詞(地名)数字になると、伝わっていないようで、ろう盲者も、時折うなずいてはいるが、(A) と比べると、ろう盲者のうなずきや表情が乏しく見える。
問題点	講演が始まる前や途中に、OA機器の不具合で、PCが動かなくなった時に、通訳者は、状況説明してなくて、ろう盲者が、不安の表情であった。 通訳者同士で、アシストしていないため、ろう盲者が、不安の表情。

	<p>通訳の経験が、浅いと話してましたが、2人の通訳者のレベルに差があり、ろう盲者の表情に、顕著に出ていました。</p> <p>視察観察の場所を最初に、確保出来なくて、ろう盲者からは、横で、完全には、見えなかった。(特にAの場合は、横からしか見えなかった)</p> <p>講演後、(B)は、直ぐに帰って、(A)は、交流会まで、参加しましたが、講演会終了後は、全く通訳が居なく、触手話研修会メンバーが、対応しました。(A)が、講師や他の人と、写真を撮っていたためです。ろう盲者の存在を忘れていました。</p>
感想	<p>今回 初めて、視察に参加して、日頃 通訳介助してる自分自身、「人のふり見て、我がふり直せ」のとおり、改めて自分も反省しつつ、自己研鑽し、地についた活動をして行きたいと痛切に思いました。</p> <p>講師の袴田さんの講演事体は、すばらしく、魅力ある講演で、世界各国を訪れて、色々な人と出会い民族や性別、国境さえ関係なく、触れ合い、危険をも顧みず、勇気ある行動で、とても羨ましく思いました。ご家族や友人にも恵まれた袴田さんだから、挑戦できたのだと思いますが、何より袴田さんの豪快な人柄が、様々な経験をアシストしたと考えます。講演時に、91か国で、今後も。バイクでの放浪は、続くそうです。男のロマンにも終わりがなく、いつまでも、少年の心を忘れない袴田さんでした。実際に、世界を放浪したバイクや、革ジャンも展示していました。そして、驚いたことに、会場まで、そのバイクを運転してきたそうです。袴田さんご自身は、とても、物静かで、優しい印象でしたので、数々の危機をも乗り越えてきた方には、見えませんでした。(あくまでも、私個人の感想ですが・・・)</p> <p>今回の視察を通して、通訳は、常にろう盲者から、目を離さず、ろう盲者の目の代わりに、得る情報をいかに、リアルタイムに、伝えられるかと言うことを念頭に触手話のスキルだけではなく、心も磨かなくては、いけない。そして、通訳として活動する時には、何時も、通訳と言う立場をわすれては、いけない。</p>
報告者	喜楽順子・平名香子